

議会報告会報告書

令和5年2月27日

大竹市議会

議長 賀屋 幸治 様

B班

班長 児玉 朋也

議会報告会の実施状況について、次のとおり報告します。

1 開催日時

令和5年2月7日（月） 19時から20時30分

2 開催場所

おがたピア

3 参加人数

15人

4 担当班議員名

班 長 児玉 朋也

副班長 小田上 尚典

班 員 西村 一啓

原田 孝徳

藤川 和弘

5 報告会次第

(1) 開会あいさつ

(2) 議会からの報告

① 上下水道料金の改定について

② 議員定数について

(3) 意見交換

① 小方まちづくりについて

(4) その他のご意見

(5) 閉会あいさつ

6 議会からの報告についての主な質疑応答

(回答した質疑)

Q：業務用の水道料金は下げられていたが、一般用は下げられなかったのか？

A：業務用と一般用の金額差が大きく、業務用は 20 m³からの価格設定であったが、8 m³の設定を設けた。業務用とはいえ業種により使用水量には大きく差がある。その点の解消を目指した結果このような料金改定となった。

Q：弥栄ダムから取水をしているのは市の事業か？1000 万円の減額の経緯は？

A：県の事業で、大竹市も参加している。経緯としては、かつて、水不足が心配されていたことにより参加していた。現状は大竹市が利用する県水の量が減っているので、交渉の末、購入金額が 1000 万円減額された。

Q：子育てに力を入れていると謳っているが、水道料金の影響を受けて苦しいと思う。このような値上げは政策に逆行するのではないか？

A：子育て支援については、今後給食費の無償化について取り組みをしていくと議会への説明があった。加えて子ども医療費 500 円などの施策がとられており、多方面から支援がある。水道料金だけを見るとそのように感じるかもしれないが、子育て支援に逆行するということはないと思う。

Q：他市と比べて議員数などの比較をしたのか？多いのか少ないのか？

A：人口規模で近い江田島市が 16 名、竹原市は 14 名、安芸高田市 16 名ということで大竹市が突出して多い少ないということはない。

Q：議員定数を考える際に市民の声は聴いたのか？

A：議会改革特別委員会ではそれぞれの委員が市民から意見を聞くとともに、議会報告会で議員定数についてアンケートを集め、その結果も参考にしながら協議の結果、結論を出している。

(意見・要望等)

- ・市民の意見を聞く場を多く設けてほしい

7 主な意見交換 「小方まちづくりについて」

(回答した質問)

Q：小方新駅の調査費 1000 万円では一体何をするのか？

A：以前は小方駅の可能性について調査していた。今回は新設するにあたって、利用者の状況など幅広い調査結果が J R との具体的な交渉・協議に必要なため、コンサルを入れて行うものである。

Q：小方駅は何年を目処に進めてきたのか。

A：大竹駅再整備についてＪＲとの協議が終了しなければ、小方駅に手を付けることができなかった。実際に実現させるということで、年数の具体的な話はできないが執行部も取り組んでいる。

Q：旧小方小中学校跡地の土地を早く手放してしまったほうがいいのか？新聞報道で整理ができていないから売れないと出ていたがどうなのか？

A：現状で跡地を売却してしまえば、駅ができた際よりも不利な条件になる可能性が高く、駅の有無により大きく異なってくる。売却のための整理はほぼついているという説明を受けている。

(要望・意見)

- ・小方駅新設の際に住民の負担が無いように行ってほしい。
- ・小方地区には医療機関が少ないので跡地に医療機関を作って欲しい。

8 その他の主なご意見

(意見・要望等)

- ・おがたピアは２次避難所であったが、３次避難所になった。２次避難所をお願いしたい。
- ・議会報告会を定例会ごとに行ってはどうか？

(回答した質疑)

Q：現状避難所については全く進捗がない。県の危機管理部門に意見を出している。この件については議会内で取り上げてほしい。

A：執行部に伝えていきたい。

Q：旧小方中学校の体育館の照明が暗く活動ができない。

A：教育委員会に伝えていきたい。

9 気付きや反省点

- ・小方地区での目に見える変化とそうでない部分の説明の分け方が難しかったように感じる。水道料金等は追加で作成された手元資料を参考にしながら説明することができた。
- ・具体的な質問や意見をいただく際には、事前に知っておくほうが親切な回答ができると感じた。
- ・すべての報告について満遍なく質問、意見が出たことは良かったように思う。